

白糠町ではラム肉やシカ肉を食べました。また、町内を見て回り、とても良い場所だなという印象を持ちました。ウレシパチセにもおじゃまをさせていただきました。そのときに、アイヌ儀式の映像を見させていただき、アイヌ文化に対して興味を持ちました。

### 「アイヌ」がテーマ

嘉山…白糠町を見て回ったときに、「この町で映画祭をやってみよう」と思いました。東京に戻ってから、友人たちに白糠町のことや、映画祭の話をしました。すると俳優の友人から「映画祭よりも映画を作ってはどうか」という話をされました。

映画を作ったことはありませんが、私の周りにはいろいろと映画関係の方がいまして、漠然とですが『映画を作れそうだ』ということになりました。それであれば、撮影は縁のある白糠町でやらせていただきたいと思い、棚野町長に映画の話を見せていただきました。また、アイヌ文化に興味がありましたので「アイヌ」をテーマとした映画作品を作りたいと思い、白糠アイヌ協会にも話をさせていただきました。



合同会社プロテカの嘉山健一代表

### 全町を挙げて応援

棚野町長（以下…町長）私は、アイヌの方々の今日までの歴史的な経過、背景を考えながら、町全体がイオルという認識でまちづくりを進めています。昨今、アイヌ民族のさまざまな思いが認められて「アイヌ新法」という法律ができました。私はこのタイミングで、こういうお話をいただいたのが必然的だと思っています。撮影は、白糠町が拠点になります。北海道全体で見ても、この映画がこのタイミングで果たす役割は大きいと思っています。また、脚本は尾崎さんが引き受けてくださるということで、すばらしい作品になる

だろうと思っています。映画制作は、町としてもアイヌ協会にとってもありがたいお話ですので、全町を挙げて応援していきたいと思っています。

Q 映画の脚本を尾崎さんにしようと思ったのはなぜですか。

嘉山…映画を作るにあたって、まずは、脚本家ということで、真つ先に尾崎さんの名前が思い浮かびました。尾崎さんは、人物を描くのが上手な方ですので、そこにアイヌ文化を合わせるとおもしろい作品ができるのではないかと思いました。それで尾崎さんに話をしたところ、引き受けてくださるということになりました。

Q 映画が完成するまでのタイムスケジュールを教えてください。

嘉山…今年1年、2020年末を目指して脚本を完成させて、2021年1月から撮影開始。2022年3月末までに映画を完成させる（編集まで終わらせる）予定です。前後することはありますし、劇場との関係もありますので、映画の公開時期はもっと遅れるかもしれません。

Q 年内に脚本を完成させるということですが、今の段階でストーリーの構想はありますか。

尾崎将也氏（以下…尾崎）先ほど、嘉山さんから報告のありましたとおり「アイヌをテーマとした映画の脚本をやってみませんか」というお話をいただきました。私は普段、東京に住んでいますので、アイヌのことを詳しくは知らないのですが、私は『新しいことに挑戦したい』というタイプの人間ですので、知らないからこそ、やってみようと思い、二つ返事で引き受けました。

普段は主にテレビドラマの脚本を書いているのですが、ほぼ自動



映画の脚本を手掛ける尾崎将也氏